
魔法少女リリカルなのは ～Hecate～ (仮)

絆の錬金術師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは ｾ H e c a t e ｾ (仮)

【Nコード】

N3023Y

【作者名】

絆の錬金術師

【あらすじ】

私はいつからいたのか、なぜいるのかはわからずそこにいた。だからこそ、私はわすれない・・・

初投稿です。見にくいとは思いますが、見てくれるとありがたいです。

プロローグ1

ある研究所があった。

研究所では、表にだせない様な違法な研究が行われていた。

私はそこにいた。

いつからいたのか、なぜいるのかはわからず、名前も覚えていなかった。

毎日、体を調べられては、研究員から、役立たずと罵声や暴力を受けるそんな毎日だった。

「だからだろうか？私は表情をなくしたのは。気づいたのは研究員に殴られたときだった。」

「このガキ！すました顔しやがって！」
自分でも、心は痛いと呼んでいるのに、顔は無表情のままだったのだろう。

それから数ヶ月、それは突然だった。

突如、研究所を襲った大きな揺れ。そして「管理局だ！」と言う声と聞こえてくる足音。それは研究所が踏み込まれたという現実だった。研究員たちは慌てて証拠を消し

たり、逃走の準備をするが踏み込んできた管理局員によって、一人、また一人とつかまっていくのだった。

研究者たちが、粗方捕まえられ、研究所内が落ち着くと、私のもとに一人の女の人が出来てきた。

「はじめまして。私はエミリオ・アルトル・シェッテといいます。あなたのお名前は？」
「女の人は笑顔でそういった。

私は困った。自分の名前なんて知らなかった。あたふたしているとエミリオは

「もしかして、名前がないとか？」

本当のことをあてられて恥ずかしくなつて、下を向いてしまうと、エミリオは

「そんなしょんぼりしないで。私はあなたを助けにきたんだから」そう言うのであった。

そうして、エミリオと話していると一人の管理局員がエミリオに話しかけてきた。局員がエミリオに小声でなにかを話すとすぐに離れていった。エミリオはというと、顔をうつむいていて、何か悲しそうに見えた。だから私は

「大丈夫？」と言った。するとエミリオは一瞬ハッとしたが、すぐに笑って、

「大丈夫よ。心配してくれてありがとうね。

「と返してきた。私はありがとうなんて言われたことがなかったけど、言われた瞬間に心が温かくなった気がした。

それから、エミリオは私が外に出たことがないことを知ると、

「じゃあ、いつしよに行こうか。」と言って、すぐに他の局員に伝えにいき、外へと向かうことになった。私は初めての外に内心ドキドキだった。一歩ずつ歩いていき、遂に光が見えてくる。そして光の下にでて、私はなんともいえない感情を覚えた。空はどこまでも青く、太陽はやさしい光で私を包み込んでくれる。私がそんなことを思っている、エミリオは

「よかった。ようやく、笑ってくれたわね」と微笑みながら言う。私は顔をさわってみるとたしかに頬がゆるんでいた。だが満更でもないなと思うと、この光景を一生忘れないと想うのだった。

プロローグ1（後書き）

どうも、作者の絆です。初投稿なんで見にくいとおもいますが、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3023y/>

魔法少女リリカルなのは ~ Hecate ~ (仮)

2011年11月13日22時05分発行